

尾熊議員（公明党）

令和2年2月26日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）インクルーシブ教育の取組について

インクルーシブ教育を高校で実施する中で、まず今年度の通級指導の受入校数や受入生徒数は何名だったのか、そして、通級指導を開始してどのような課題があり、どのような対策を行うのか、さらに今後のインクルーシブ教育の環境整備をどのように計画しているのか、併せて教育長に伺う。

（答）

県立高等学校における通級による指導につきましては、現時点では、特別な教育課程の編成が必要となる生徒はおりませんが、一定の支援が必要な生徒に対しては、特別支援学校の教育相談主任が高等学校を訪問し、昨年度は1校で1名、今年度は3校で3名の生徒に対し直接支援を行っております。

この他にも、学校の求めに応じて、平成30年度の実績ではございますが、県立高等学校において、653名の生徒に対し個別の指導計画を作成するに当たり、特別支援学校からの支援等を行っているところでございます。

こうした取組を進めるに当たっての課題といたしましては、個別の指導計画の内容を学校の全教員に共有できておらず、効果的な指導ができていないケースもございます。

県教育委員会といたしましては、今年度改訂した広島県特別支援教育ビジョンに基づき、教員の専門性の向上を図るほか、個別の指導計画等の作成や共有を通じて、生徒への支援体制の整備を進めるなど、インクルーシブ教育の推進に取り組んでまいります。